

平成22年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		学校開放施設の団体・区民利用等			款	7	項	5	目	1	事業	4	整理番号	536
担当部課名		教育委員会事務局社会教育スポーツ課			係名	管理係(学校開放担当)		連絡先電話番号	1665		昨年度整理番号	524		
上位施策No・施策名		60 地域への学校開放			予算事業区分				既定事業					
事業開始		昭和	▼	58	年度	<input type="checkbox"/> 実施計画事業 分野		政策番号	施策番号	事業コード	<input type="checkbox"/> 行革計画事業 <input type="checkbox"/> 主要事業			
対象		<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理		区内在住・在勤・在学者		根拠法令等		(1) 社会教育法第44, 45, 47, 48条 (2) スポーツ振興法13条						
事務事業の概要	事業の目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		学校施設を区民のスポーツ・文化活動や遊び、憩いの場として有効に活用するとともに、学校施設を活用することで、学校を中心とした地域のコミュニティ意識の高揚及び区民の自主的活動を活発にする。		活動指標名(式)		(1) 遊びと憩いの場開放日数 (2) 学校開放登録総数							
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		○区立小中学校施設を児童及び生徒が使用していない時間に、区民等に、スポーツ・文化活動や遊び、憩いの場として提供する。 ○地域住民の交流のため、自主運営団体である利用者団体協議会が主体となって地域運動会、スポーツ大会及び公開講座等を行う。		成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標							
		成果指標名(1)		遊びと憩いの場利用者数		算定式・指標の説明等		遊びと憩いの場を利用した者の人数						
		成果指標名(2)		利用者団体協議会行事実施数		算定式・指標の説明等		行事実施数						
区分		単位	19年度		20年度		21年度		22年度計画(目標値)		目標値に対する21年度の達成率%	計画に対する21年度の達成率%		
			実績	計画	実績	計画	実績							
指標	活動指標(1)	①	人	5,855	6,000	5,713	6,000	5,530	6,000	92.2	92.2			
	活動指標(2)	②	人	19,064	22,000	19,052	22,000	18,972	22,000	86.2	86.2			
	成果指標(1)	③	回	166,097	180,000	167,637	180,000	174,225	180,000	96.8	96.8			
	成果指標(2)	④	回	36.0	70.0	37.0	70.0	41.0	70.0	58.6	58.6			
総事業費・コスト把握	事業費	⑤	千円	88,662	112,203	91,537	102,651	92,329	92,660	21年度予算執行率%		89.9		
	(内)投資的経費等	⑥	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項				
	(内)委託費	⑦	千円	24,648	36,281	28,898	35,073	30,129	31,629	事業の活動内容をより把握しやすくするために活動指標「学校施設利用者数」を「遊びと憩いの場開放日数」に成果指標「学校開放連合協議会活動回数」を「遊びと憩いの場利用者数」に変更した。				
	職員数(常勤 非常勤)	⑧	人	3.10 2.00	3.00 2.00	3.17 2.00	3.00 2.00	3.20 2.00	3.00 2.00					
	人件費	⑨	千円	28,334	27,150	28,689	26,637	28,413	26,637					
	(内)非常勤職員分	⑩	千円	5,540	5,600	5,600	5,586	5,586	5,586					
	総事業費⑤+⑨+⑩	⑪	千円	122,536	144,953	125,826	134,874	126,328	124,883					
	単位あたりコスト(⑪-⑥)÷①	⑫	円	20,928	24,159	22,025	22,479	22,844	20,814					
	財源	受益者負担分	⑬	千円	0	0	0	0	0	0				
		国からの補助金等	⑭	千円	0	0	0	0	0	0				
都からの補助金等		⑮	千円		0	0	0	0	0					
その他の補助金等		⑯	千円		0	0	0	0	0					
特定財源計⑬+⑭+⑮+⑯		⑰	千円	0	0	0	0	0	0					
差引:一般財源⑪-⑰		⑱	千円	122,536	144,953	125,826	134,874	126,328	124,883					
受益者負担比率⑬÷⑪	⑲	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						

※19年度の国からの補助金等欄の金額は都からの補助金等、その他の補助金等を含む

平成22年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 536

21年度の事業実施状況	内容	規模	単位		事業費(千円)
			単位	事業費(千円)	
(1)主な取組み ※(執)(細)は、事業費の内訳として会計上設定している項目	学校開放指導員謝礼	5530	日		24,307
	学校開放に伴う光熱水費				21,947
	プール開放運営委託費	18	校		17,725
	学校施設維持管理費				18,476
	その他(光熱水費、医薬品・遊具ほか)				9,874
(2)事業実績	年間の利用者が延べ955,396人と多くの区民が学校施設を活用してスポーツや文化活動を行うことができました。学校開放連合協議会のバレーボール大会やブロックごとのスポーツ大会、地域運動会の開催、学校行事への利用者団体協議会の参加などにより地域コミュニティの醸成に貢献しました。				
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	ほぼ現行の学校開放の形態となった昭和61年度と平成21年度との対比 「遊びと憩いの場」開放日数4,953日⇒5,530日 利用人員282,892名⇒174,225名 「団体開放」登録団体数415団体⇒739団体 利用人員307,493名⇒769,586名			
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	学校行事の拡充等で登録団体の利用時間が制限され、特に校庭を利用する登録団体からは利用時間の確保の要望があり、また遊びと憩いの場については実施日数の拡大の要望も出されています。学校施設に対する意識の変化もあり、騒音等への苦情が増えています。			
	今後の予測	学校行事の拡充や校庭の芝生化などにより利用時間の確保が難しくなっており、利用団体間での調整などに工夫が必要となってくると思われます。また、校舎の改築時には防音や近隣住民のプライバシーを保護する構造にするなど地域住民に配慮した視点がより必要となってきます。			
事業のあり方点検	左の理由または具体的内容				
	(1)施策への貢献度は大きい 貢献度 大(理由→)	区民のスポーツ、文化活動の場の確保、学校施設の有効活用、コミュニティの活性化が図られました。			
	(2)①現在の事業費で成果を向上させることができるか ある程度できる(②↓) ②成果向上のための方策 その他(具体的内容→)	各利団協の活動・事業を更に活性化させ、多くの利用者の交流の場を作り上げます。			
	(3)受益者負担の見直し余地は ない(理由→)	学校施設の有効利用の一環であり利用上の制限も多いため、利用者には使用料を負担させるのは難しい。また徴収方法等が煩雑になるため、受益者負担にするのは難しい。			
	(4)コストを下げる余地はあるか ない(理由→)	効率的運用に努めています。			
協働等点検	(1)協働等は実現しているか 一部実現している	(2)協働等の相手 NPO・ボランティア・市民活動団体((3)へ)			
	(3)協働等の形態 協働[委託]	(4)協働等の今後のあり方 推進			
評価と課題	学校開放連合協議会のバレーボール大会やブロックごとのスポーツ大会、地域運動会の開催、学校行事への利用者団体協議会の参加などにより地域コミュニティの醸成に貢献しました。個人開放事業や遊びと憩いの場、プール開放等、より多くの区民に利用されるよう広報等により利用者の拡大を図ります。				

改善・見直しの方向(中長期)	成果:	<input type="radio"/> 増	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 減	コスト:	<input type="radio"/> 増	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 減	
	(1)前年度の改革案の取り組み状況(22年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)	遊びと憩いの場事業では、計画的に各学校を訪問し問題点の把握に努め、指導員に対しては業務の徹底を図りました。							
	(2)改革案の概要(いつまでに、どうかたちに) ※事業のあり方点検欄を踏まえて記入	個人開放事業やプール開放事業では利用者の増加に向けてPRに努めます。遊びと憩いの場の開放日数増や開放指導員のあり方を今年度中に検討します。							
	(3)改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法	学校と地域団体との協力関係や施設構造の違いなど学校ごとに状況が違ふことで、学校ごとの対応が異なるケースがあります。そのため一律的な対応が困難なため各学校ごとに対応していきます。							
23年度方針	(1)23年度予算見積りの方向性	<input type="radio"/> 大幅増	<input type="radio"/> 増	<input checked="" type="radio"/> 増減なし	<input type="radio"/> 減	<input type="radio"/> 大幅減	<input type="radio"/> 予算なし		
	(2)理由	遊びと憩いの場の指導員詰所やクラブハウス、開放用トイレの老朽化が進んでおり、計画的な修繕によって利用者の使いやすい施設にしていきます。							